

慶賀新春

本年年行事予定

一月 一日 午前八時	修正会（元旦のお参り）
二月十五日 午後一時	定例法座
三月二十一日 午後一時	春季彼岸会法要
四月十五日 午後一時	定例法座
五月十五日 午後一時	花まつり法座
六月十五日 午後一時	定例法座
七月十五日 午後一時	定例法座
八月十六日 午後一時	孟蘭盆会法要
九月八〜九日	宗祖聖人報恩講法要
九月二十三日 午後一時	秋季彼岸会法要
十一月十五日 午後一時	定例法座
十二月十五日 午後一時	定例並びに大掃除

2014（平成26）年

北広島市大曲緑ヶ丘2丁目16-1 011-376-2255

浄土真宗本願寺派 興徳寺

<http://www.bea.hi-ho.ne.jp/kentyan/>

民俗学者、宮本常一は日本国中、古老やら、名もしれず生きてきた人々を訪ね膨大な聞き書きを通し新たな民俗学の扉を開きまさに巨星と言っていいだろう。その歩いた距離は日本地図にその足跡を赤鉛筆で描けば地図が真っ赤になるといふ。その自伝的な著作「民俗学の旅」に「いったい進歩というものは何であろうか。発展というものは何であろうか。失われるものがすべて無用であり、時代遅れのものであったのか」と述べ、「進歩という迷信が、時にはそれが時代だけでなく生きとし生くるものを絶滅にさえ向かわしつつかあるのではないかと思うことがある」と書いている。二十世紀は戦争の時代と言われ、その反省から二十一世紀は輝かしい時代を期待していたが、形こそ変われ、人と人とが競い、争い、そして憎しみ合いは情報の発達と共に増しているように思われる。政治も、経済も、社会も進歩ばかりを目標にしているが、その結果得たものより失ったものの大きさを思う。それはけっしてものばかりではない。優しさ、思いやり、相手の心を読む力、憎しみ遇う隣国の心を読む力であったりするのだ。時代の進歩に取り残されたものにもっと目を向けられたらと……